

地域に根付く京菓子文化



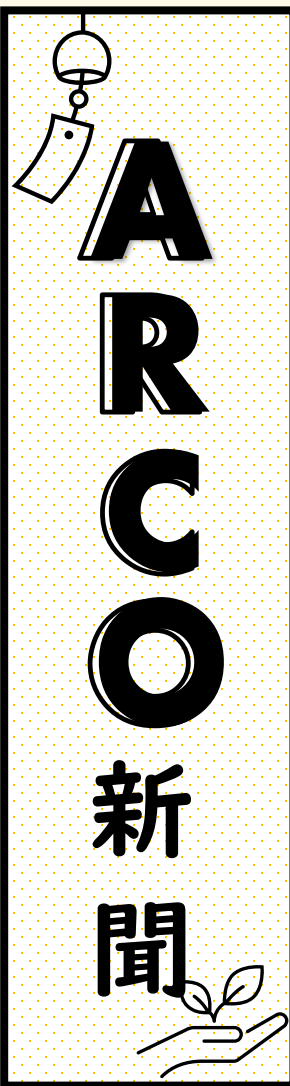
写真左下：水無月、写真右上：貴船の彩

私たちは学生の中には、京菓子屋さんに行つて京菓子を買うという事は、特別なこと、敷居が高いこと、であるように感じる人もいるかもしれません。しかし、京菓子は人々の暮らしの中の様々な場面で親しまれていきます。一階は有料のお茶席となつており、出来立ての季節の和菓子を味わうことができます。三階は和菓子の体験教室となつており、社内研修など様々な場面で利用されています。京菓子資料館はまさに、見て、食べて、感じるこのとでできる総合施設なのです。そこで今回、私たちは、京菓子の歴史や魅力を知るべく、俵屋吉富の成岡さんにお話をうかがいました。

みなさんは京菓子と和菓子の違いを知っていますか。京菓子は和菓子的一种ですが、いくつかの特徴があります。まず京菓子は、京都で作られた和菓子であることを前提としますが、最大の特徴は季節感を大切にする点にあります。また、京菓子は抽象的な形をしており、菓子の名前から想像を膨らませ、五感で楽しめるようになっていきます。さらに京菓子には、和室の空間に合う、淡い色が好んで用いられます。

このような京菓子に興味を持った人にぜひ訪れてみてほしい場所があります。それが京菓子資料館です。京菓子資料館は、京菓子を様々な人に知ってもらう機会作りを目的として平成十三年に設立され、「京菓子司 俵屋吉富」の烏丸店に隣接します。同志社大学今出川キャンパスからは徒歩数分の場所に位置し、無料で、誰でも自由に見て回ることが出来ます。三階建ての構造で、メインとなる二

見て食べて感じる！
京菓子資料館とは



7月26日(月)
第4号

歴史から見る 京菓子と上京区のつながり

京都は、千年以上の長きにわたって古くから都が置かれていた場所です。京都御所があることから天皇の居住地として文化が栄えた地であり、物流の流れも良く、いろいろな土地から様々なものが京都に集まってきたいました。このように文化的・地理的に恵まれていた土地であったということが、京都という地で菓子文化が発達した一つの要因であると成岡さんは話します。

一方、京都は茶の湯文化が栄えていた場所でもあります。この点について、「和菓子とお茶は切り離せないところがあります。上京区は茶道の流派のなかでも主要な三千家(表千家、裏千家、武者小路千家)が集まっている土地でもあるので、そういったところでも、お菓子が昔から栄えていた土地であったのではないかと成岡さんは話します。

人々の暮らしと京菓子

私たち学生の中には、京菓子屋さんに行つて京菓子を買うという事は、特別なこと、敷居が高いこと、であるように感じる人もいるかもしれません。しかし、京菓子は人々の暮らしの中の様々な場面で親しまれていきます。一階は有料のお茶席となつており、出来立ての季節の和菓子を味わうことができます。三階は和菓子の体験教室となつており、社内研修など様々な場面で利用されています。京菓子資料館はまさに、見て、食べて、感じるこのとでできる総合施設なのです。そこで今回、私たちは、京菓子の歴史や魅力を知るべく、俵屋吉富の成岡さんにお話をうかがいました。

また、特別な用事がないとも、普段の生活の中のお菓子としても愛されており、特に季節に合わせた京菓子は人気があるそうです。六月三十日の「夏越の祓」には「水無月」というように四季折々の行事に関連した京菓子を食べる日は「紋日」と呼ばれ、この紋日に合わせて京菓子を購入する方が多いとい



写真：京菓子資料館(二階)

京菓子文化の 新たな挑戦

最後に、京菓子文化のこれからについてお聞きしました。伝統はもちろん守りつつ、そのなかでも革新的で、今までとは志向が違ってお菓子作りを進めていきたいといいます。上京区という歴史のある地で、長い年月をかけて築き上げられた京菓子文化を守りつつも、新たな試みで若い世代の人にも文化を知ってもらいたい。そんな思いが取材を通して感じられました。

私たち若い世代に期待されていることは、まずは京菓子を食べて、京菓子文化を知ることではないでしょうか。京菓子文化を知ることが、上京区の歴史について知ることだけでなく、四季を大切にしていたり、おもてなしの心を持っていたりする地域の方々に思いをはせることであります。京菓子資料館に足を運んでみると、京菓子、さらには京菓子の発展を支える人々との新たな出会いがあるかもしれません。

ARCO便り

車通りの多い烏丸通りに、凛とたたずむ京菓子資料館。実際に訪れてみると、京菓子は何か高尚なものというイメージとは違い、京菓子についてわかりやすく、親しみやすい展示がされていました。例えば、京菓子の作り方。写真を用いてわかりやすく、工程が紹介されており、思わず見入ってしまいました。人の手で一個一個作られている様子はとても興味深いものでした。

展示の中でも印象的だったのは、ウェディングケーキをイメージして作られた大きな松の糖芸菓子です。糖芸菓子は、全国菓子大博覧会のような特別な行事の際に作られるようですが、なんと何ヶ月もかけて一つの作品を作るそうです。職人さんの技術が詰まった芸術味豊かな糖芸菓子はとても繊細で、鑑賞しているときまるで美術館にいるような気持ちになりました。

お話しいただいたように、たくさんさんの要因が相まってこの地で発展した京菓子。その歴史に興味を持った方も、ぜひ一度訪れてみてください！

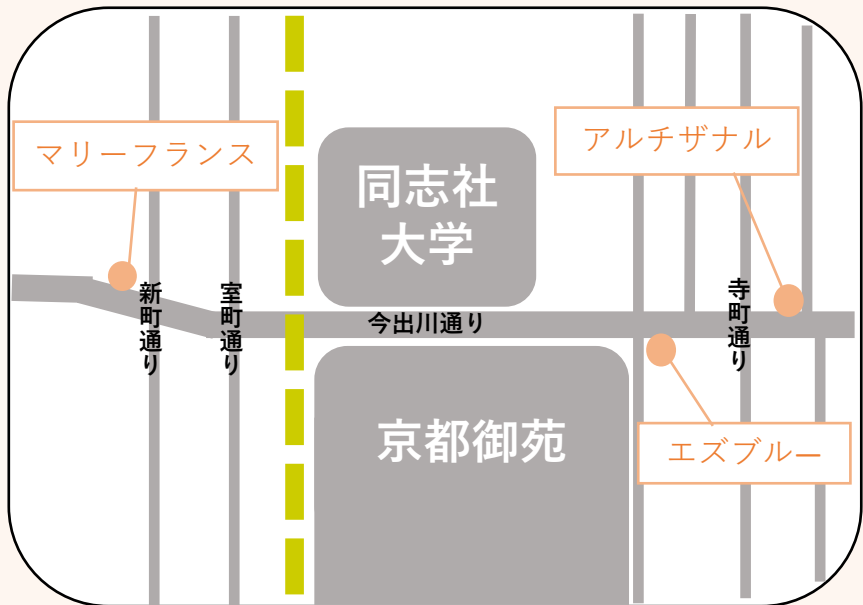
写真：京菓子資料館（一階）



パン屋の街ー京都

「和」のイメージのある京都ですが、実はパンの消費量が日本でもトップクラスに多いということを知っていますか？

今回は大学から歩いて行ける距離にあるパン屋さんを3店舗ご紹介します！ぜひ大学の外に飛び出して、京都の人々に愛されるパンを楽しんでみてください。



マリーフランス (BOULANGERIE MaryFrance)



外観や内装が可愛らしい雰囲気。パンの種類も豊富で見た目にも楽しく、毎日炊くという自家製のアンが特に人気のパン屋さんです。

営業時間：[平日]7:00～18:30
[日曜]7:00～18:00
定休日：月曜日・火曜日

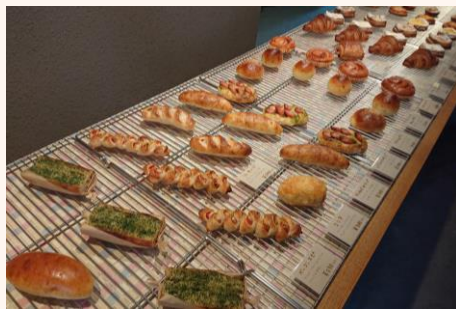
エズブルー (eze bleu)



温かみのある雰囲気の店内には惣菜パンやサンドウィッチなども含めたくさんの種類のパンがぎっしりと並んでいます。特にハード系のパンが豊富で人気。

営業時間：7:00～19:00
定休日：火曜日・第3月曜日

アルチザナル (boulangerie Artisan' Halles)



外観も内装もスタイリッシュで洗練された雰囲気。特にハード系やデニッシュ系のパンが豊富で味はもちろん見た目も美しいパンが並んでいます。

営業時間：9:00～19:00
定休日：水曜日・木曜日

「森の博物館」 京都御苑

「母と子の森」

皆さんは京都御苑に行ったことはありませんか？同志社大学に隣接した場所にあるため、足を運んだことのある学生は多いかもしれません。京都御苑は、旧皇居である京都御所を取り囲む国民公園です。公園単体の面積は、約六十五haにもなり、これは今出川キャンパスの約十倍の大きさです。一周するだけでも中々大変な広さを持つ京都御苑ですが、ここには魅力あるスポットがたくさんあります。

本来、御苑は皇室の所有する庭園を意味します。とはいえ、京都御苑は庭園であることにとどまらず、地域に開かれた空間でもあります。苑内には、児童公園やテニスコート、レストランを併設した休憩所といった来訪者が利用できるスペースが多数設けられており、観光客だけでなく、地域に住む学生や家族連れなど、老若男女問わず、多くの人が訪れ、スポーツや遊び、自然を通して人々の交流が育まれる憩いの場となっています。

京都御苑の魅力の一つに、多種多様な植物を観察できる点が挙げられます。苑内には、約五万本の樹木が植えられており、春にはシダレザクラやサトザクラなど約千本の桜が開花し、秋から冬にかけてはイチョウやカエデが美しく色づきます。他にも、ツバキやサルスベリといった樹の花や、

カンサイタンポポやシロツメクサといった草花たちが季節の移り変わりの中で多様な姿を見せてくれます。京都御所を囲むように敷かれていく幅広い砂利道から、樹林が生い茂る小道に足を踏み入れると、そこでは、市街地の中に迷い込んでしまったような、そんな錯覚に陥るほどの自然豊かな情景を目にすることが出来ます。

今なお、コロナ禍の影響で先行き不透明な生活が続いていますが、そんなときだからこそ、京都御苑をゆっくりと散策し、森や草木を感じ、そこに集う小鳥たちの心地よい歌声に癒されてはいかがでしょうか。

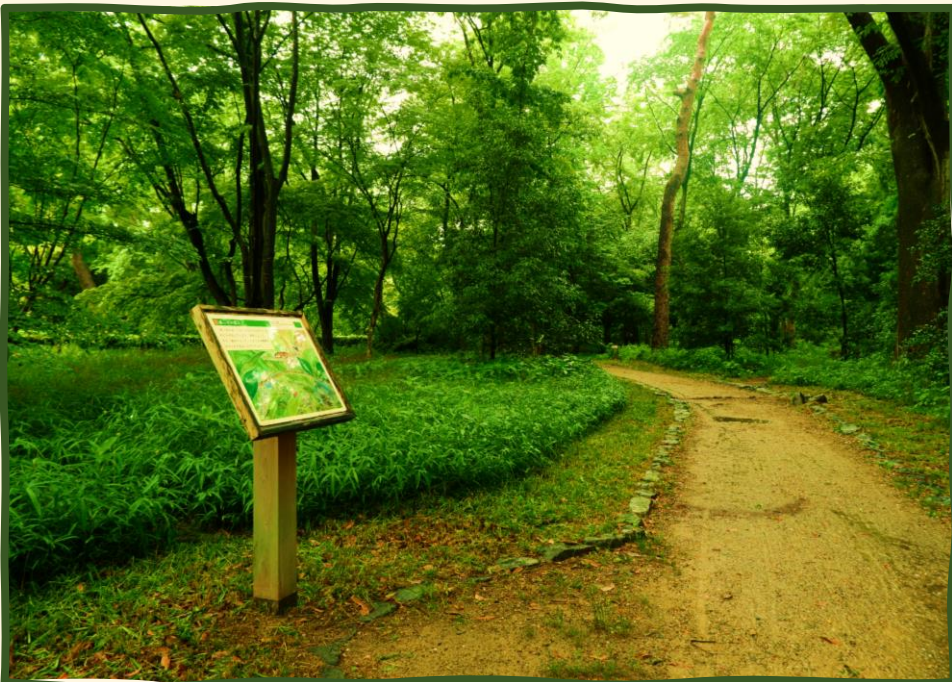
森の中に本棚？

京都御苑北東に位置する「母と子の森」と呼ばれるエリアをご存知でしょうか。母と子の森は、昭和六十一年、母と子が自然と触れ合える機会を多くしようとの当時の環境庁の提唱により、地元の金融機関の寄付によって整備されました。

森の中心には、鳥や植物の図鑑が収められた本棚が設置されており、四月から十一月までの期間、誰でも自由に閲覧することが出来ます。本棚の近くには、野鳥が集まる「鳥の水場」もあるのですが、バードウォッチングをしながら、鳥の種類や生態について学びを深めることができそうです。

また、母と子の森とその周辺には、御苑に自生する植物や生き物を紹介する解説標識が所々に設置されています。例えば、キノコをテーマにした標識では、キノコの各部の名称や、種類の判別方法が詳しく説明されています。他にも、苑内に生息するトンボの紹介や紅葉の仕組みを解説した標識もあります。

本棚や標識を通して、自然に関するさまざまな学びの機会を提供する京都御苑。ありのままに生きる植物や生き物たちを、実際に見て、触れて、知ることが出来るのは「森の博物館」である京都御苑ならではの魅力といえますね。



参考：<https://www.env.go.jp/garden/kyotogyoen/>

画像については、京都御苑管理事務所の許可を得て撮影を行っております。

ARCOボランティア体験記

@まるごと美術館

まるごと美術館は、寺社仏閣の特別拝観と合同で行われる展覧会です。寺宝に加え、現代アート作品や伝統工芸品、夜にはライトアップでなんと素敵な空間が広がります。春と秋に開催されるまるごと美術館では、各会場で受付や誘導などを行うボランティアに参加できます。今回は二〇二一年春に参加した際のエピソードを紹介します。



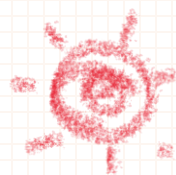
(妙顕寺)

実は、まるごと美術館は大学から歩いて行ける距離にあります。次の開催は秋を予定されていて、綺麗な紅葉をみられるのではないかと思います。ボランティアとして参加してみると、また一味違う体験ができるはずです！

ができました。ホームページのボランティア募集フォームから参加申し込みをすることができ、参加のハードルも比較的低いボランティアだと思っています。印象に残ったのは、まるごと美術館の裏側を垣間見たことです。夜の部に参加した際には、アート作品の解説を芸術家の方から直接伺うことができたり、ライトアップの景色を独り占めしたりすることができました。夜桜もとても綺麗でした。また、そこで出会った地域のボランティアの方とお話をしたことも印象に残っています。京都のボランティアや歴史について話してくださる気さくな方で、たくさんお話してしまいました。またどこかでその方に会えたらなと思っています。

(政策学部二回生Mさん)

私は和束町での茶畑ボランティアに参加しました。具体的な内容は茶畑の整備をして、苗を植える作業でした。身体を動かす作業なので、そこそこ大変でした。しかし作業が終わるととても達成感を得られました。この自分たちが植えたお茶の苗は七年から十年後には収穫ができるようになると聞き、また機会があれば和束町を訪れたいと思いました。



@和束町

植えるなど、お茶に関する作業を行えることです。二つ目は魅力あふれる和束町に行けることです。写真にあるように和束町は町全体に美しい茶畑が広がっていて、自然が豊かな落ち着いた場所です。またお土産屋さんや立ち寄った際には、たきさんのお茶や抹茶プリンなどのお菓子が売られていて、どれもおいしかったです。しかしながら和束町は京都市内から離れていることもあり、普段なかなか行く機会がないという人が多いと思います。だからこのボランティアは和束町に行く機会にもってこいだと思っています。

(政策学部二回生Sさん)

ボランティア支援室では、同志社生のボランティア活動を応援しています。ボランティアに関する相談など、気軽にお越しください！

お問い合わせ

同志社大学ボランティア支援室(今出川)

場所: 寒梅館1F

開室時間: Volunteering

平日9:00~11:30 12:30~17:00

ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

TEL:075-251-3236

ARCO (今出川)
Twitter

ARCOとは…?

同志社大学ボランティア支援室の学生スタッフとして、地域、ボランティアと学生をつなげる活動をしている団体です。

最後に…

読後アンケートにご協力ください！！

ぜひ皆さんの感想をお聞かせください。ARCOの今後の活動に活かしていきます！

所要時間: 3分

アンケートフォーム

